

# 軽井沢新聞

7/10

July  
2017編集局 Tel.0267-46-3001 Fax.0267-46-3880  
〒389-0111 長野県軽井沢町長倉 2380-27身近な情報を編集局までお寄せ下さい ● E-mail info@karuizawa.co.jp  
広告に関するお問い合わせ ● 株式会社アドエイド Tel.0267-46-0055

## 軽井沢人物語

近茶流宗家  
柳原料理教室主宰

柳原 一成 さん

江戸懐石を今に伝える宗家、  
軽井沢では“週末農民”に

江戸時代後期の文化文政期、町家の奥様方が、冠婚葬祭に合わせて用意した江戸懐石「近茶料理」を今に伝える。家伝の懐石と包丁道を引き継ぎ、柳原料理教室（東京・赤坂）の主宰として、長男で嗣家（しか）の尚之さんとともに、大勢の門下生に料理を指導。教室では料理の作り方のほか、食材や調理道具の扱い方、膳組作法などについても講義する。もともと女性の手で興った料理法のため、使う出刃包丁も小さめの五寸（15cm）と決まっている。

「魚の関節に包丁を入れると、鯛などの大きな魚も楽に下ろせます。『柔よく剛を制す』の技術を応用した、包丁の使い方が特徴です」

先代からの軽井沢の山の家に、大学生の頃から訪れる。自宅のある六本木は「一日中明るく、夜中でもカラスが鳴く」。軽井沢に来ると「夜中は真っ暗で、懐中電灯がないと歩けない。その環境が体に英気を入れてくれています」。

30年ほど前、発地に畠を借りて以来、春から秋まで毎週通う“週末農民”に。トウモロコシにじゃが芋、長ねぎ、白菜、かぼちゃなど、収穫した野菜は、自宅や東京の教室で使い、福祉施設にも寄付している。

「育てて、植物のなり方を見るのが好きなんです。どうしたら農薬を使わずに済むかとか、どんな虫がつくかとか、そういうことを学ぶのが楽しい」

5～7月に8話連続で放送したNHKの土曜時代ドラマ「みをつくり料理帖」の料理監修を尚之さんが担当。女料理人役を務めた俳優黒木華さんが、教室で学ぶ様子を見ていて、気付くことは多かった。

「黒木さんは上達が早い。メモを一切取らずに、せがれがするのを一生懸命見てるんですね。それからは教室でも、私が魚をおろすときはノートをとることより、よく見ることを奨めるようになりました」

柳原家にとって家族旅行は、イコール食材巡りの旅のこと。

「『泊まる旅館は決めなくても、行く港だけは決めておく』というのが先代の教え。子どもたちも「夏に北海道へ行つても、札幌ではなく昆布の育つ海岸ばかり」と言っていたけれど、今では彼らのライフワーク」

1942年生まれ。床暖房を入れているので、畠仕事のない冬も軽井沢へ。「孫たちがスキーをするので、一足早く来て、家を温めておくんです」と、孫煩惱の一面も。



歴史的な出来事があつた建物や、著名人が住んだ家に銘板を設置する英國発祥の制度にならい、軽井沢町が「ブループラーブ制度」をスター

トさせた。6月22日、認定式を開き、建物30件の所有者に認定書と銘板を贈呈した。町教育委員会から委託を受けた軽井沢ナショナルトラストが昨年度から、相応しい建物を調査していた。A・C・ショリーの軽井沢第一号別荘を復元したショーハウスや、ボーリズ建築の軽井沢集会堂などの貴重な写真を残す土屋写真店など、軽井沢の歴史を引き継ぐ施設も認定を受けた。

2019年度までに約100件の認定を目指すという。

銘板は英國にならい円形で、直径30㌢、厚さ4㍉。白字で、青色。素材はステンレスで、

建築年や別荘番号、建物の名稱、概要を記した。

## 歴史的建造物に銘板、30件認定

藤巻進町長は「時代の変遷で、貴重な建物が少しずつ失われているのが現状。事業を通じ、歴史的な建物を少しでも後世に残せていただけたら」と話した。

認定を受けた旧

軽井沢の貸別荘地

前田郷の本館は、

実業家前田栄次郎

が1933年に建

築した建物。当時

としては珍しいロ

グハウスで、所有

者の前田博子さん

は「今と違い、相

当異労して建てた

ものだと思う。そ

の思いを引き継い

でいきたい」と思

いを語った。

2015年、メガソーラーの設置場所

## 町花サクラソウの群生地が消えた！

2015年に約3万坪の土地に太陽光発電施設を造った南軽井沢・馬取の土地に、毎年咲いていたサクラソウの群生がなくなつたことが、近所の人の証言でわかつた。

サクラソウの群生地だった現場を案内してくれた大畠晃利さんはこの隣接する場所で暮らしている。「毎年サクラソ



金網の向こうはソーラーパネルが並ぶ。大畠さんが指さす方向には、以前はサクラソウがたくさん咲いていた（今年5月24日撮影）

Karuizawa Style

軽井沢  
Vignette 800yen 発売中

2017 上巻

特集 この場所だからできること・やりたいこと  
軽井沢という選択

特別企画 建物ウォッチング名人が行く  
渡辺篤史さんの別荘探訪

特集 憧れだけでは暮らせない。現実は…  
軽井沢に移り住む

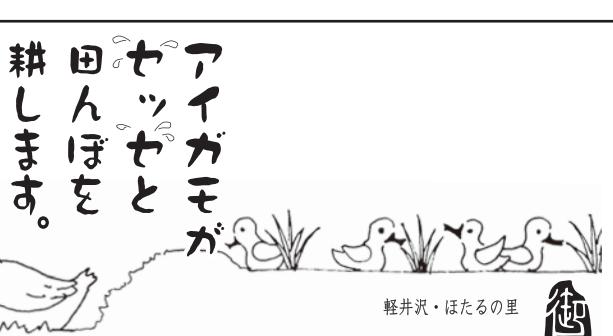
今日はこの店 おすすめメニュー・魅力の品

井沢には貴重な自然が残つてゐるのだから、開発の際は慎重にしてほしい」と話した。

サクラソウの保護活動を行つてゐるボランティア団体「サクラソウ会議」代表の須永久さんは「町内のサクラソウがあるときは、保護するので

ウがたくさん咲くのを見たが、メガソーラーの工事が始まつた年から激減した。毎朝飛んできたオオジシギが始まつてからは全く来なくなりた」と嘆く。オオジシギはオーストラリアから飛来する絶滅危惧種で、その独特な鳴声と旋回する様子を見る「夜明けの観察会」が行われたこともある希少な鳥だ。

軽井沢の野の花の普及活動を行つてゐるボランティア団体「われもこうの会」代表で、当時軽井沢自然保護審議会の委員でもあつた猪又裕子さんは「太陽光発電は必要と思い、メガソーラー建設に賛成した。



御厨では、かまど炊きご飯の御膳をはじめ、お食事をご用意しております。

御厨では、田舎っぺ俱楽部の仲間です。

8:00~21:00(14:00~17:00は喫茶のみ) Tel: 0267-41-6741

休 無休 〒389-0113 長野県北佐久郡軽井沢町発地 2127

www.mikuriya-kamado.com インターネットでも紹介しています。

※御厨は「田舎っぺ俱楽部」の仲間です。

田舎っぺ俱楽部 INAKAPPE CLUB

Cocorade

every day

Cafe Hanami

MIKURIYA

至小諸 烏井原

至塩沢 セブンイレブン

至高崎 風越公園

至72GC 白山の里

南保育園

ホタルの里

ホタルの里